

スタンフォード A 型急性大動脈解離術後の患者における 集中治療室退室時の身体機能と退院時転帰の関連

1. 研究の対象

2020 年 4 月～2024 年 3 月に当院でスタンフォード A 型急性大動脈解離の手術を受けた方

2. 研究目的・方法

スタンフォード A 型急性大動脈解離は命に関わる疾患であり、多くの場合は緊急手術が行われます。手術の技術や後療法の進歩により術後成績は向上してきていますが、術後に身体機能が低下し、日常生活を満足に送るために相当期間のリハビリテーションが必要な方も少なくありません。特に、高齢な方ではその可能性が高くなることが予想されます。身体機能の低下を防ぐためには手術後に可能な限り早期から離床（座ることや立つこと）や運動療法が重要だと様々な分野で謳われています。しかし、スタンフォード A 型急性大動脈解離の手術を受けた方で同様なことが正しいかは明らかになっていません。そこで私たちは、スタンフォード A 型大動脈解離術後の患者さんを対象に集中治療室から退室する際の身体機能が早期離床の成果として自宅退院ができるかどうかに関わると考え、調査することとしました。

具体的には以下に記載する情報を診療録から収集し、集中治療室から退室する際の身体機能評価の結果が退院先（主に自宅退院できたかどうか）に影響するかどうかを検証します。

研究実施期間：研究実施許可日～2026 年 3 月 31 日

利用を開始する予定日：2024 年 7 月 5 日

3. 研究に用いる情報の種類

基本情報（性別、年齢、併存疾患など）、手術の情報（術式、手術時間、出血量など）、術後経過の情報（人工呼吸を要した期間、集中治療室を退室する際の身体機能評価、合併症、在院日数、退院先など）等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

研究責任者：

秋田大学医学部附属病院リハビリテーション部 理学療法士 大倉 和貴

連絡先：〒010-8543 秋田県秋田市広面字蓮沼 44-2 [TEL:018-884-6372](tel:018-884-6372)（直通）

試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称：

国立大学法人秋田大学大学院医学系研究科

研究科長 羽瀨 友則